

# 南三陸の海洋資源の現状

## ～震災前後の変化について～



### 海中のガレキの状況

東京大学の無人潜水艇による調査などにより、軽いものは沖合へ、コンクリート構造物など重いものは沿岸部に留まっている傾向が明らかとなりました。県による撤去作業で、船舶の航行の支障になるガレキはほとんど撤去されま

したが、漁場のすべてのガレキを撤去できているわけではありません。引き続き、県による撤去作業が予定されています。

### 水質・プランクトンの状況

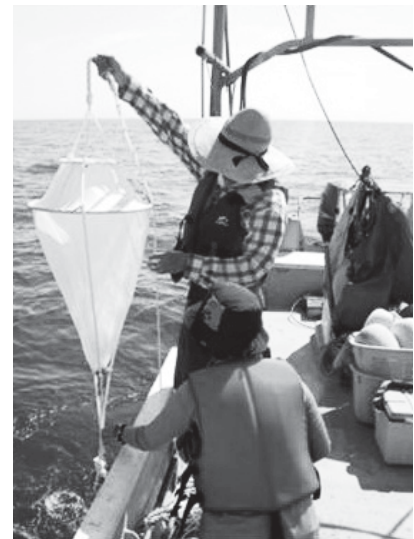
町と県、民間研究機関が行った調査からは、これまでのところ湾内の水質に大きな変化は観測されておらず、カキやホタテの餌となる植物プランクトンの密度も、特に目立った変化はありませんでした。養殖漁業に適した環境は、おおむね保たれているといえます。

### 海底環境

海底の環境は津波により大きくかく乱され、砂地や泥地に生息する貝やゴカイなどの生物に影響が出ている可能性があります。特に幼稚魚のゆりかごと呼ばれるアマモ類はほとんど流出したと考えられ、回復までには何年もかかると考えられます。

岩礁域に生えるアラメ（地方名：カンヅメ）についてはNPO法人日本安全潜水水教育協会や東北大学等の調査により、砂地などに比べるとそれほど大きな被害は出ていなかったことがわかりました。ウニやアワビの生育環境はおおむね保たれているといえますが、一方荒島から弁天崎にかけての志津川湾奥部ではアラメが根元から折れるなど、津波の影響が大きく、その後の回復状況について、東北大学が継続的な調査を行っています。

震災前から実施してきた環境省のアラメ場定点調査では、今年はまだ見られなかったワカメが高密度で生育していることが明らかになりました。



### 磯・干潟の状況

これまでアサリの生息場だった町内の干潟は、砂の流出と地盤沈下により、大きく環境が変わっています。湾内の浄化機能の低下や、幼稚魚の生息場としての機能低下が懸念されます。

磯の環境も地盤沈下による影響を受けますので、磯もの海藻の生える場所がこれまでとは変わってきます。今年に関しては、ワカメ・マコンブの繁茂が見られる場所もありました。植生が落ち着くまでには、数年かかることが予想されます。

### 放射性物質に関する状況

志津川の市場で水揚げされる水産物については、県から測定器の貸与を受け、放射性物質の測定を行っております。マダラなど一部の魚種を除いて、放射性物質は検出下限以下か、検出されても十分低い数値（基準値以下）に留まっています。特に養殖ワカメやギンザケについては、これまで検出されたことがありませんので、安心できるレベルです。

町では、これまで自然環境活用センターなどが行った調査をもとに、今後も外部の研究機関等と協力して、海洋環境の変化を捉え、発信していきます。



震災前の状況

**問い合わせ**  
産業振興課水産業振興係  
☎46-1378

